



ほんだ

新発田市立本田小学校

変わり続ける社会の中にある、いつまでも変わらない社会

教頭

昨今の情報通信の進展には目を見張るばかりです。インターネットの普及により、情報通信機器を使えば、世界中のどこで、いつ、何が起きているのかを、いとも簡単にそして瞬時に知ることができるようになりました。最近では、「モノ」が「モノ」とインターネットでつながり、情報を収集したり新たな価値を創造したりするIoT(internet of things)という技術も普及してきています。この「いつでも、どこでも、だれでも」が「ヒト・モノ・コト」とつながることのできる社会(ユビキタスネットワーク社会)の実現は、総務省が中心となって2004年からスタートした国の一大プロジェクトでした。ユビキタスネットワーク社会の実現によって、私たちの暮らしは大きく変化し、一側面から言えば、私たちの生活に利便性や快適性をもたらしました。これからも刻々と変化し続けていく私たちの社会。子どもが生きるこれからの未来は、一体どのような社会になっていくのでしょうか。

数年前に、福岡県へ行って、名物の「水炊き」を食べました。遠く千キロ以上離れた地へと足を延ばし、水炊き専門店を探しました。店に入ると、温かな鍋の湯気と美味しそうな香りが私たちを包み込み、鍋を囲んで楽しく談笑する人の姿が目飛び込んできました。店員の「水炊き」をつくる技は実に洗練されて無駄がありません。私はグツグツと煮え立つ鍋をぐっと見つめました。そして、できたての水炊きを「ふーふー」して口に運んだ時に、「これが、福岡の水炊きなんだ」と思い、感動しました。このような感動は、インターネットで簡単に取り寄せた「水炊きセット」からは感じることはできません。

人と人との出会いも同様です。目と目を合わせ、相手の醸し出す雰囲気を感じ、緊張しながら交わす言葉一つ一つの中から、相手の人柄や考えが少しずつ伝わってくるものです。子どもが生きる未来の社会を正確に言い当てることなど誰にもできませんが、今も、そして未来も変わることなく存在し続ける社会が一つだけあります。それは人と人が関わりをもって生きる社会「人間社会」です。人と人との関係を上手につくり、自分らしく生きてゆける人が、今を、そして、未来を豊かに生きてゆける人なのだと思います。

豊浦小学校の開校に向けて、豊浦地区4校の交流会が始まりました。引率した担任は「子どもたち、借りてきた猫みたいにおとなしかったです。」と言い、参加した子どもは「すごく緊張しました。でも楽しかった。」と笑顔で振り返ります。新たな出会いに胸を躍らせ、新たな人との関係づくりに向かおうとする子どもにエールを送りつつ、人と人との出会いを大切に、今を、そしてこれからを生きていってほしいと願っています。



本田小学校とさようらまでにやりたいこと その1

2学期の終業式で、校長先生が「本田小学校とさようならをするまでに、みなさんがやりたいことを考えてきてください」と全校に呼びかけました。

3学期の始業式の日、全校から「みんなのやりタイ」を集めました。「委員会の仕事をがんばりタイ」「みんなともっと仲良くなれるイベントをしタイ」「雪遊びをみんなでしタイ」「みんなで逃走中をしタイ」「みんなで絆を深めタイ」様々な思いや願いがカードに書かれました。

そこで、運営委員会が中心となって、「みんなの願いを叶えタイ」プロジェクトが始まりました。その1つ目が「マッコ雪遊び大会」です。スマイル班（異学年交流班）ごとに、グラウンドで思い思いの雪像を作ったり雪遊びをしたりして、冬の遊びを満喫しました。これからも、「みんなの願いを叶えタイ」プロジェクトは続きます。



掲示板には、子どもたちの「やりタイ」がたくさん



給食週間 栄養士さん、調理手さんに感謝の気持ちを伝えよう

給食への関心を高めるとともに、毎日給食に携わる栄養士さんや調理手さんに感謝の気持ちを伝えることを目的に、1月25日～29日を「給食感謝週間」を行いました。栄養士さんや調理手さんのお話を聞いたり、給食を作ってくれる方々に感謝の気持ちをメッセージや手紙にして手渡したり、各学年の代表や先生に給食インタビューをしたりしました。メッセージを受け取った調理手さんは、一人一人のメッセージをじっくりと読み、とても喜んでくれました。

